

第13回宇宙安全保障部会 議事要旨

1. 日時

平成28年5月30日（月） 14:00～16:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀 部会長、片岡 部会長代理、折木 委員、久保 委員、鈴木 委員、山川 委員

(2) 事務局

小宮 宇宙開発戦略推進事務局長、佐伯 宇宙開発戦略推進事務局審議官、高見 宇宙開発戦略推進事務局参事官、行松 宇宙開発戦略推進事務局参事官、松井 宇宙開発戦略推進事務局参事官、守山 宇宙開発戦略推進事務局参事官

(3) 説明者

防衛省防衛政策局戦略企画課長 末永 広

4. 議事要旨

(1) 宇宙政策委員会中間取りまとめに向けた検討課題について

平成28年4月26日に議論された、中間取りまとめに向けた検討課題について、資料1及び資料2に基づき、事務局より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の意見・質問があった。(以下、○意見・質問、●事務局の回答等)

○中間取りまとめにおいて、安保部会案件として議論する項目の中には、来月立ち上げる予定と聞いている宇宙産業振興小委員会と平行的に議論されるべきものもあるのではないか。

●当然二つは関連しながら回していかなければいけないが、例えば米国などは、宇宙の安保利用によって、民生をリードしてきた経緯があり、ヨーロッパは民生が主導をとってきている経緯がある。我が国においては、これまで研究開発が主体であったが、今後何がドライビング・フォースとなって我が国の宇宙を引っ張っていくかについての議論を産業小委等の中で検討していかなければいけない。

(2) 宇宙状況監視体制について

宇宙状況監視体制について、机上回収資料に基づき、防衛省より説明を行った。当該説明を踏まえ、委員から以下の質問があった。(以下、○質問、●事務局等の回答)

○説明に、JAXA・米軍との情報共有について触れているが、これらと、防衛省との人的交流をどう考えるか。

●JAXAとの間では共同プロジェクトを通じ、日常的に調整を行っているほか、人事交流を実施している。また、防衛省の人的基盤の育成のためには米国の先進的な知見の習得が重要であることから、米空軍宇宙業務課程への派遣等を実施

○米側の動きとして、今後SSAの権限をFAAに委譲するという話もある中、我が国が今後SSAを進めていく中で、この動きがどう影響してくると考えているか。

●ご指摘の件については承知しているが、本件が我が国の宇宙状況監視にいかなる影響を与えるかについて確たることをお答えできる具体的な情報は持ち合わせていない。引き続き状況を注視したい。

○いずれにせよ、これまでは軍中心のフレームワークだったのが変わってきており、今後保秘の問題等様々な可能性を考慮していかなければいけないと思料。

○宇宙物体を監視するに当たっては、何もない状態からではなく、事前に情報を仕入れたうえで、監視を行った方が、効率性がいいと考える。

●宇宙状況監視を効果的に実施するためには、衛星運用者との協力は重要な要素であり、必要な検討を深めていきたい。

以 上